

令和3年度

事業報告書

一般財団法人 札幌市下水道資源公社

目 次

実施事業等会計事業

I 調 査 研 究 事 業 . . . 1

II 普 及 啓 発 事 業 . . . 3

その他会計事業

I 下 水 汚 泥 処 理 施 設 総 括 管 理 事 業 . . . 4

- 1 東部スラッジセンター事業
- 2 西部スラッジセンター事業

II 水 処 理 施 設 総 括 管 理 事 業 . . . 8

III 下 水 道 科 学 館 運 営 管 理 事 業 . . . 9

IV 河 川 管 理 施 設 総 括 監 理 事 業 . . . 10

V 道 路 廃 材 資 源 化 施 設 総 括 管 理 事 業 . . . 11

- 1 アスファルト再生事業
- 2 建設発生土再生事業

VI 道 路 再 生 資 材 販 売 事 業 . . . 13

VII 北 海 道 地 方 下 水 道 協 会 受 託 事 業 . . . 14

事 業 報 告 の 附 属 明 細 書 . . . 15

実施事業等会計事業

I 調査研究事業

1 汚泥濃縮の適正な運転条件に関する調査（令和3年度）

(1) 目的

東部スラッジセンターの汚泥濃縮において、平成30年度にみずみち棒を導入した濃縮タンクの適正な運転条件を調査するとともに、汚泥性状の分析を行い季節変動等に応じた運転管理に結びつく知見を得ることを目的とした。

(2) 調査内容

調査内容は、以下のとおりとした。

- ① 調査時期は9月・11月・1月・3月とし、調査期間は1回あたり3週間とした。
- ② 汚泥の沈降性に効果があるみずみち棒の設置間隔の違いが、界面（沈降した汚泥と上澄水の境界面）の位置に与える影響を調査した。みずみち棒の設置間隔は、No.1～3濃縮タンクが150mm、No.4濃縮タンクが300mmの等間隔である。
- ③ みずみち棒の設置間隔が同じNo.1～3濃縮タンクで、搔寄機の回転速度（0.88m/分～3.53m/分）を変更して、搔寄機の回転速度の違いが界面の位置に与える影響を調査した。
- ④ 濃縮タンク投入汚泥、引抜汚泥及び越流水の季節変動による性状を把握することにより濃縮タンクの管理に有効となるか、また、脱水性への影響を把握するために分析を行った。分析項目は蒸発残留物、浮遊物質、粗浮遊物、有機酸等とした。調査時期は②・③項目の調査時期に合わせて行った。

(3) 結果

- ① みずみち棒の設置間隔が異なる濃縮タンクについて、運転時の界面の変化を比較したところ、明らかな差異は見られなかった。（図1）
- ② みずみち棒の設置間隔が同じ濃縮タンクについて、搔寄機の回転速度を変えて界面の変化を比較したところ、回転速度の違いでは明らかな差異は見られなかった。（図2）なお、夏季は水面に汚泥の腐敗ガスと思われる気泡が多く見られたが、回転速度を通常運転時より速めたところ、濃縮タンク水面に浮上する気泡の量が減少する様子が観察された。
- ③ 分析結果では、脱水性に影響する粗浮遊物は1月に、腐敗を示す有機酸は9月に他の測定時期よりも高い値を示した。（図3）

(4) 考察

- ① みずみち棒の設置間隔や搔寄機の回転速度の違いによる界面への影響については、明確な違いは確認されなかった。今後は、運転経費等も考慮しながら、最適な間

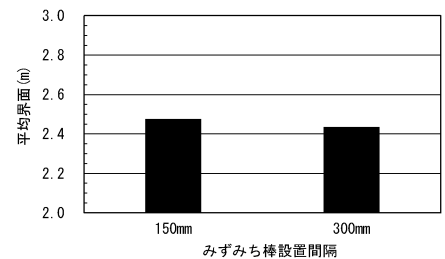


図1 みずみち棒設置間隔と平均界面

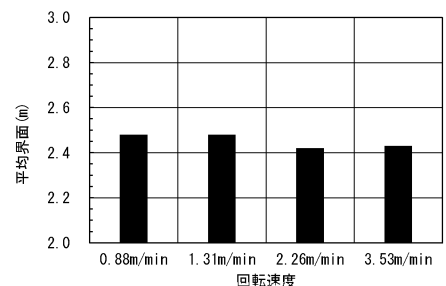


図2 回転速度と平均界面

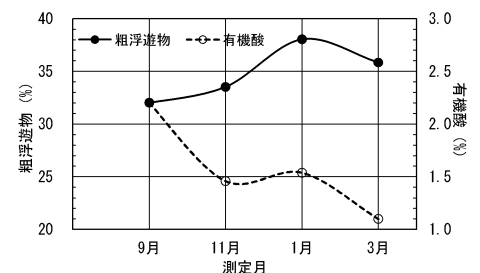


図3 引抜汚泥粗浮遊物・有機酸測定結果

隔・速度に関する検討が必要と考えている。

- ② 夏季に掻寄機の回転速度を速めることにより、濃縮タンク水面に浮上する気泡量の減少が見られたことについては、汚泥の腐敗が進むとされる嫌気環境にある時間短縮が図られ、腐敗ガスが発生するまでに至らなかったと考えている。腐敗ガス発生を抑制することで、汚泥にガスが付着し水面に浮上するといった悪影響が低減されることが期待される。
- ③ 汚泥の脱水性に影響すると言われる粗浮遊物は、1月に最も高い値が認められ、平成23年度の調査でも同様の傾向を示しており、このことに限ると冬季に脱水性が良くなることとなる。しかしながら、実際には冬季に脱水性が悪化する傾向が顕著であることから、脱水性については粗浮遊物以外の要因が大きく影響しているものと考えられる。このため、脱水性に影響する要因に関して調査・検討を進めていきたい。
- ④ 有機酸については、腐敗を示す有機酸の多少が、濃縮性・脱水性に影響を与えていると推測されることから、これらとの因果関係についても更なる調査が必要と考えている。

Ⅱ 普及啓発事業

1 事業内容

札幌市と連携して進めている下水道事業に関する「普及啓発事業」を公社独自に実施する事業である。

2 事業実績

① 下水道科学館等の施設見学支援

下水道の普及啓発及び環境教育の一環として、小学校の施設見学会に対してバスの貸出支援を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で下水道科学館が長期間休館となったことから、今年度は1学期に6校(バス19台 488人)、2学期に10校(バス31台 690人)の利用にとどまった。また、小学校と回線をつないでオンライン授業を試行的に行い、モデル校1校を対象に3日間実施した(3クラス 92人)。

② 夏休み・冬休み自由研究勉強会

主に小学生を対象に開催しているイベントで、今年度は夏休み期間中全日休館となったことから冬休み期間のみ開催した。内容は水処理実験教室のほか段ボールガチャガチャや空き缶ランタン、ハーバリウムなどを作る工作教室を実施し、3日間でのべ39人の参加があった。

③ その他のイベントの実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館記念イベント、冬フェスタ及び春の感謝祭を中止し、その他のイベントについても規模を縮小して実施した。

また、下水道科学館公式YouTubeチャンネルを開設し、下水道科学館のPRや、下水道への興味を深めてもらう内容の6本の短編を制作した。

計画していたその他のイベントの実施状況

イベント名	開催予定日	実施状況
下水道科学館開館記念イベント	5月	中止
秋の感謝祭	10月	縮小して実施
クリンちゃんのクリスマス	12月	縮小して実施
新春お楽しみ会	1月	縮小して実施
冬フェスタ	2月	中止
春の感謝祭	3月	中止
下水道勉強会	毎月第2・4日曜日	臨時休館中及び 2・3月は中止

その他会計事業

I 下水汚泥処理施設総括管理事業

1 東部スラッジセンター事業

1-1 事業内容

東部スラッジセンターの運転管理業務の適正な履行を確保し、総合的・効率的に管理、監督、調整する事業である。

1-2 事業実績

脱水施設においては、濃縮槽の汚泥界面及び汚泥濃度管理を徹底するとともに、脱水機の低回転運転に取り組み低動力運転が実施できた。

焼却施設においては、燃焼温度・流動砂及び排ガスの管理を徹底し、大きな故障もなく順調に運転できた。安全面においては、運転業者と共に各施設のパトロールを毎月実施するなど、安全管理に努めた。

(1) 脱水施設

豊平川・厚別・東部の各水再生プラザから圧送された汚泥の処理固形物量は、当初計画より 4.4% 減の 18,827ds-t/年となった。固形物回収率は 98.9%、脱水汚泥含水率は 75.2%となり、いずれも札幌市の仕様を満足する運転を行うことができた。

処理状況

	項目	令和3年度実績	当初計画
処理量	処理固形物量 (ds-t/年)	18,827.7	19,700
	脱水汚泥量 (t/年)	68,447.0	72,520
仕 様	固形物回収率 (%)	98.9	95 以上
	脱水汚泥含水率 (%)	75.2	76 以下

(2) 焼却施設

焼却施設では、当脱水施設のほか、西部スラッジセンターの脱水汚泥の一部及び厚別洗浄センターのスクリーンかすを受け入れた。処理量は、当初計画より 1.1%減の 67,731 t/年となった。また、焼却灰の未燃分は最大値で 0.4%となり、札幌市の仕様を満足する運転を行うことができた。また、今年度は、西部スラッジセンターの工事に伴い 2,252t の脱水汚泥を受け入れたが、大きな故障等もなく順調に処理することができた。

処理状況

	項目	令和3年度実績	当初計画
処理量	脱水汚泥等受入量 (t/年)	67,731.32	68,510
	焼却灰搬出量 (t/年)	1,585.38	1,700
仕 様	焼却灰未燃分 (%)	0.4 (最大値)	2 以下

※脱水汚泥等受入量は、厚別洗浄センターからのスクリーンかす 214.20 t を含む。

(3) 厚別洗浄センター

厚別洗浄センターでは、水再生プラザ、ポンプ場などから発生するスクリーンかすを受け入れ、水洗浄を行った。洗浄スクリーンかす搬出量は、当初計画より 15.7%減の 214 t/年となり、全量を東部スラッジセンターで焼却した。また、残さ搬出量は、当初計画より 48.4%減の 22 t/年となり手稲前田埋立施設に搬出した。

洗浄スクリーンかす含水率は 64.6%となり、札幌市の仕様を満足する運転を行うことができた。

処理状況

	項目	令和 3 年度実績	当初計画
処理量	スクリーンかす受入量 (m ³ /年)	796.01	938
	洗浄スクリーンかす搬出量 (t/年)	214.20	254
	残さ搬出量 (t/年)	22.20	43
仕 様	洗浄スクリーンかす含水率 (%)	64.6	65 以下

2 西部スラッジセンター事業

2-1 事業内容

西部スラッジセンターの運転管理業務の適正な履行を確保し、総括的・効率的に管理、監督、調整する事業である。

2-2 事業実績

脱水施設においては、濃縮槽の汚泥界面及び汚泥濃度管理を徹底して、大きな故障もなく順調に運転できた。また、脱水機の低回転運転に取り組み冬期間を除き低動力運転が実施できた。焼却施設においては、燃焼温度及び排ガスの管理を徹底するとともに、受入汚泥量の変動に対して適切な対応を行い、順調に運転できた。また、蒸気発電機の効率的な運転に取り組み経費削減に努めた。安全面においては、運転業者と共に各施設のパトロールを毎月実施するなど、安全管理に努めた。

(1) 脱水施設

集中脱水施設において、創成川・拓北・伏古川・茨戸・新川・手稲の各水再生プラザから圧送された汚泥の処理固形物量は、当初計画より8.1%減の33,154ds-t/年となった。固形物回収率は98.5%、脱水汚泥含水率は74.9%となり、いずれも札幌市の仕様を満足する運転を行うことができた。

定山溪脱水施設において、定山溪水再生プラザから運搬された汚泥の処理固形物量は、当初計画より46.8%減の133ds-t/年となった。固形物回収率は97.7%となり、札幌市の仕様を満足する運転を行うことができた。

処理状況（集中脱水施設）

	項目	令和3年度実績	当初計画
処理量	処理固形物量 (ds-t/年)	33,154.6	36,060
	脱水汚泥量 (t/年)	129,404.1	144,220
仕様	固形物回収率 (%)	98.5	95以上
	脱水汚泥含水率 (%)	74.9	76以下

処理状況（定山溪脱水施設）

	項目	令和3年度実績	当初計画
処理量	処理固形物量 (ds-t/年)	133.04	250
	脱水汚泥量 (t/年)	835.99	1,580
仕様	固形物回収率 (%)	97.7	95以上

(2) 焼却施設

焼却施設では、当脱水施設のほか、東部スラッジセンターの脱水汚泥の一部及びスクリーンかすを受入れた。処理量は、当初計画より12.9%減の131,654t/年となった。

焼却灰の未燃分は0.2%となり、札幌市の仕様を満足する運転を行うことができた。また、今年度は、9月より1系焼却施設が更新され初期対応等あったが、汚泥処理に影響することなく運転することができた。

処理状況

	項目	令和3年度実績	当初計画
処理量	脱水汚泥等受入量 (t/年)	131,654.55	151,093
	焼却灰搬出量 (t/年)	13,987.47	17,100
仕様	焼却灰未燃分 (%)	0.2 (最大値)	2以下

※脱水汚泥等受入量には、各水再生プラザからのスクリーンかす2,406.01tを含む。

(3) 手稲沈砂洗浄センター

手稲沈砂洗浄センターでは、水再生プラザ、ポンプ場、下水道管の清掃から発生する沈砂を受け入れ、水洗浄を行った。洗砂搬出量は、当初計画より 24.4%減の 1,866t となり民間中間処理施設のほか手稲前田埋立施設で処理した。また、残さ搬出量は、当初計画より 1.8%減の 402 t/年となり手稲前田埋立施設に搬出した。

洗砂強熱減量は 8.4%となり、札幌市の仕様を満足することができなかったものについては、手稲前田埋立施設へ搬出した。

処理状況

	項目	令和 3 年度実績	当初計画
処理量	沈砂受入量 (m ³ /年)	4,547.4	5,448
	洗砂搬出量 (t/年)	1,866.6	2,470
	残さ搬出量 (t/年)	402.8	410
仕 様	洗砂強熱減量 (%)	8.4	8 以下

II 水処理施設総括管理事業

1 事業内容

下記水再生プラザ等の運転管理業務の適正な履行を確保し、総括的・効率的に管理、監督、調整する事業である。

- ① 厚別水再生プラザ及び野津幌川雨水ポンプ場、川北中継ポンプ場、厚別川雨水ポンプ場、汚水調整池、厚別水再生プラザ貯留施設
- ② 定山溪水再生プラザ及び定山溪中継ポンプ場、藤野中継ポンプ場、簾舞中継ポンプ場
- ③ 東部水再生プラザ
- ④ 拓北水再生プラザ
- ⑤ 伏古川水再生プラザ及び伏古川雨水ポンプ場、伏古川雨水貯留管施設

2 事業実績

各水再生プラザ及びポンプ場において、降雨時対応等問題なく順調に運転できた。

(1) 運転状況

各水再生プラザにおける総流入下水量は下記のとおりとなった。

	降水量 (mm/年)	総流入下水量 (千 m ³ /年)	
		令和 3 年度実績	当初計画
厚別水再生プラザ	1,092.5	38,273	40,482
定山溪水再生プラザ	1,092.0	2,232	2,803
東部水再生プラザ	1,083.0	11,256	12,119
拓北水再生プラザ	1,004.5	2,912	2,920
伏古川水再生プラザ	903.5	16,086	18,169

(2) 放流水質

定山溪水再生プラザにおいて、目標値を若干超える結果となったが、排水基準を十分満足する運転を行うことができた。

	BOD (mg/L)	目標 BOD (mg/L)	排水基準 (mg/L)
厚別水再生プラザ	6.9	12	20
定山溪水再生プラザ	2.8	2	
東部水再生プラザ	3.5	6	
拓北水再生プラザ	2.8	7	
伏古川再生プラザ	2.8	7	

Ⅲ 下水道科学館運営管理事業（札幌市受託事業）

1 事業内容

下水道科学館の展示物及び施設等の機能の保全並びに入館者に対する対応をはじめ、広報拠点施設として適切な運営を行う事業で、内容は次のとおりである。

- (1) 入館者対応を含む施設の運営・管理業務
- (2) 下水道事業等の広報活動業務
- (3) 創成川水再生プラザ団体見学案内業務
- (4) 下水道科学館ホームページの運用管理業務

2 事業実績

施設の運営・管理業務については、建築設備及び展示物等の機能保全並びに円滑な運転確保及び保安等を図り、併せて個人・団体の入館者への対応を適切に行うよう努めた。

下水道事業等の広報活動業務については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため上半期の大半が休館となり、集客に向けた広報ができず、また同時期のイベントの多くが中止となった。このため、年間入館者数、小中学校の見学数とも目標を下回る結果となった。

創成川水再生プラザ団体見学案内業務は、コロナ禍により全面中止となった。

科学館ホームページは年間 96 回更新し、公式 YouTube の開設などもあって、アクセス数は前年度を大幅に上回る 40,187 であった。

(1) 入館者数等

入館者数及び小中学校の来校数

	令和 3 年度 実績	当初計画
入 館 者 数 (人/年)	15,267	20,000
小中学校の来校数 (校/年)	35	50

(2) 広報、イベントの実施状況

- ① 科学館ホームページ：施設 PR と公式 YouTube の紹介、小規模イベント情報等を提供
- ② 新聞やミニコミ情報誌、インターネットサイト：施設やイベント情報を提供
- ③ 下水道マスターday：11 月 3 日に開催（参加者 31 人）
- ④ 下水道科学館クイズラリー：冬休み期間及び春休み期間のみ開催し、夏休み期間は臨時休館中のため中止（32 日間開催、参加者のべ 1,032 人）
- ⑤ 下水道科学館夏祭り：中止
- ⑥ 下水道科学館フェスタ 2021：中止

(3) 臨時休館の状況（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

- ① 令和 3 年 5 月 3 日（月）～ 7 月 11 日（日）
 - ② 令和 3 年 7 月 22 日（木）～ 9 月 30 日（木）
- ①、②合わせて 132 日間休館（日数は予定されていた休館日を除く）

IV 河川管理施設総括監理事業

1 業務内容

札幌市が管理する排水機場等に係る点検整備業務及び修繕業務について、適切に履行されているか総合的に評価し、施設の性能の維持を補完するものである。

2 業務実績

以下の業務を滞りなく実施した。

(1) 履行監理業務

- ・点検整備業務の適正な履行を確保するために行う監理業務

(2) 設計図書作成業務

- ・点検整備業務の設計図書の作成
- ・予算用修繕業務の見積作成

3 対象施設

札幌市が管理する排水機場（下表の 15 機場）等

No.	排水機場名
1	米里排水機場
2	月寒排水機場
3	厚別排水機場(第1)、(第2)
4	厚別排水機場(農改)
5	山本排水機場
6	山本排水機場(農改)
7	厚別西川排水機場
8	旧軽川排水機場
9	発寒古川排水機場
10	旧中の川排水機場
11	ワラビ川排水機場
12	西宮の沢川排水機場
13	富丘川排水機場
14	新発寒桜川排水機場
15	新発寒向陽排水機場

V 道路廃材資源化施設総括管理事業

1 アスファルト再生事業

1-1 事業内容

アスファルト発生材の再資源化を行うため、アスファルト発生材の受入から生産、出荷を総合的・効率的に管理、監督、調整する事業である。

1-2 事業実績

札幌市の各工事発注課の年間使用量に基づく生産計画により、アスファルト再生材（再生加熱アスファルト混合物、アスファルト再生骨材 I 型）を製造し、札幌市発注の工事へ安定供給することができた。また、マーシャル安定度試験等の品質管理試験を行い、各製品の品質を維持した。

(1) アスファルト発生材受入量

道路工事等から発生するアスファルト発生材の受入量は、当初計画に対し 18.6%増の 167,194.2 t/年となった。

(2) アスファルト再生材生産量

再生加熱アスファルト混合物の生産量は、当初計画に対し 4.3%増の 142,857.5 t/年、アスファルト再生骨材 I 型の生産量は、当初計画に対し 10.6%増の 64,125.9 t/年となった。

再生加熱アスファルト混合物及びアスファルト再生骨材 I 型が増加した主な理由は、札幌市発注工事による使用量が増加したためである。

アスファルト再生材の生産及びアスファルト発生材の受入状況（単位 t/年）

		令和 3 年度実績	当初計画
アスファルト発生材受入量		167,194.2	141,000.0
生産量	再生加熱アスファルト混合物	142,857.5	137,000.0
	アスファルト再生骨材 I 型	64,125.9	58,000.0

再生加熱アスファルト混合物の品質（マーシャル安定度試験）

		空隙 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)	フロー値 (1/100cm)	抽出 As 量 (%)
基準値	13 ミリ	3~5	75~85	4.90 以上	20~40	6 以上
	30 ミリ	3~12	----	3.43 以上	10~40	
3 工場 平均値	13 ミリ	3.72	79.80	13.25	32.00	6.62
	30 ミリ	3.93	----	13.49	32.33	6.11

※基準値は再生密粒度アスファルト混合物（13F）、再生アスファルト安定処理を準用。

アスファルト再生骨材 I 型の品質（ふるい通過試験）

ふるい目 (mm)	53	37.5	13.2	2.36	0.6
基準範囲 (%)	100	70~100	25~80	10~45	5~30
3 工場平均 (%)	100	97.4	52.4	20.1	13.7

2 建設発生土再生事業

2-1 事業内容

建設発生土の再資源化を行うため、中沼路盤材リサイクルプラントの運転及び再生土の生産を総括的・効率的に管理、監督、調整する事業である。なお、本事業については令和3年12月24日をもって終了した。

2-2 事業実績

建設発生土の搬入量は当初計画を下回り、プラントへの投入量が当初計画の10,000 m³を下回ったため、再生砕石および再生砂の生産量は当初計画を下回った。また、路床土の搬入量が当初計画を下回ったため、再生土の生産は当初計画を下回った。

また、毎月の品質管理試験により品質の維持に努めたほか、安全集会を行うなど効率的な運転と事故の防止に努めた。

(1) 建設発生土搬入量

道路工事等から発生する建設発生土である路盤土の搬入量は当初計画の31.2%減の6,882.5 m³/年、路床土の搬入量は当初計画の59.4%減の1,016.0 m³/年となった。

建設発生土（路盤土、路床土）の搬入量が減少した理由は、予定工事での発生量が減少したものである。

(2) プラント投入量

プラント投入量は当初計画を下回り7,428.4 m³/年となった。

(3) 路盤再生材生産量

路盤再生材の生産量は、再生砕石が当初計画に対し11.3%減の3,992.6 m³/年、再生砂が31.2%減の1,720.8 m³/年、再生土が46.9%減の5,315.0 m³/年となった。

建設発生土の搬入及び路盤再生材の生産状況（単位：m³/年）

		令和3年度実績	当初計画
建設発生土搬入量	路盤土	6,882.5	10,000.0
	路床土	1,016.0	2,500.0
路盤土プラント投入量		7,428.4	10,000.0
路盤再生材生産量	再生砕石	3,992.6	4,500.0
	再生砂	1,720.8	2,500.0
	再生土	5,315.0	10,000.0
脱水ケーキ発生量		1,395.9	2,500.0

再生砕石の品質（ふるい通過試験）

ふるい目 (mm)	53	37.5	13.2	2.36	0.6
基準範囲 (%)	100	70~100	25~80	10~45	5~30
試験値 (%)	100	98	46	20	11

再生砂の品質（ふるい通過試験）

ふるい目 (mm)	0.075
基準範囲 (%)	6以下
試験値 (%)	2

再生土の品質（土質試験）

	コーン指数	0.075 mm含有量
基準値	800kN/m ² 以上	10~50%以内
試験値	1,659	41.6

VI 道路再生資材販売事業

1 事業内容

アスファルト製品（再生加熱アスファルト混合物 13 ミリ・30 ミリ、アスファルト再生骨材 I 型）及び路盤再生材（再生砕石・再生砂）の販売並びに再生土の支給に関する事業である。

(1) 販売対象工事

札幌市発注工事、民間発注工事（地下埋設工事）他

(2) 販売エリア

札幌市内

2 事業実績

販売量は再生加熱アスファルト混合物が当初計画に対して 4.3%増の 142,857.5 t/年、アスファルト再生骨材 I 型が 10.6%増の 64,125.9 t/年、再生砕石が 37.2%減の 6,911.0 m³/年、再生砂が 7.0%減の 5,209.0 m³/年となり、再生土の支給量は 37.5%減の 6,060.0 m³/年となった。

再生加熱アスファルト混合物及びアスファルト再生骨材 I 型が増加した理由は、札幌市発注工事による使用量が増加したためである。

再生砕石及び再生砂が減少した理由は、予定していた工事による使用量が減少したためである。再生土が減少した理由は、路床土の搬入量減少により生産量が減少したためである。

アスファルト製品販売量 (単位：t/年)

	札幌市	民間他	合計	当初計画
再生加熱アスファルト混合物	136,689.5	6,168.0	142,857.5	137,000.0
アスファルト再生骨材 I 型	57,965.6	6,160.4	64,125.9	58,000.0

路盤再生材販売量 (単位：m³/年)

	札幌市	民間他	合計	当初計画
再生砕石	6,911.0	0.0	6,911.0	11,000.0
再生砂	5,209.0	0.0	5,209.0	5,600.0
再生土（支給）	6,060.0	0.0	6,060.0	9,700.0

VII 北海道地方下水道協会受託事業

1 事業内容

北海道内の市町村が定める下水道排水設備工事の責任技術者として登録するための資格認定試験の実施及び資格登録更新等に係る事業と下水道関係実務研修会の運営に係る事業である。

2 事業実績

(1) 資格認定試験の実施及び資格登録更新等に係る事業

以下の①から③までの業務を滞りなく実施した。

①北海道排水設備工事責任技術者試験に関する業務

- ・試験実施計画の策定
- ・受験申込に関すること
- ・試験の実施に関すること（道内7会場）
- ・資格認定証の交付に関すること

②資格登録更新に関する業務

- ・年度計画の策定
- ・更新申込に関すること
- ・資格認定証の交付に関すること

③排水設備技術者試験等運営委員会に関する業務

- ・委員会の開催及び資料の作成等の事務局業務に関すること

受験申込者及び資格登録更新者数

	令和3年度実績	当初計画
受験申込者（人）	345	340
資格登録更新者（人）	81	75

(2) 下水道関係実務研修会の運営に関する事業

実務研修会の開催及び技術情報コーナーの設置に伴う調整・受付・運営等に関することを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実務研修会は中止となり、事業を受託することはなかった。

事業報告の附属明細書

「一般財団法人札幌市下水道資源公社定款」第8条第1項及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」第199条において準用する第123条第2項に規定する事業報告の附属明細書は、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する『事業報告の内容を補足する重要な事項』が存在しないので作成しない。

令和4年6月

一般財団法人 札幌市下水道資源公社